

## 海からの風 山からの風



## コロナ禍にめげず心豊かに

コロナ禍によって全国的にあらゆる社会経済活動、文化芸術活動、さらにはスポーツに至るまで自粛が求められ、やむなく中止、延期といった対策が採られています。

尾道市文化協会に所属される皆様も、諸行事の中止、延期などの予定変更を余儀なくされ、活動ができないという状況の下で、冷静に対応頂いておりますことに敬意を表します。

このような非常事態であっても、文芸や絵画、書道、彫刻などの個人の創作活動は進められますが、作品の発表の機会が失われます。

また合唱や舞踊などの団体活動はできませんが、情報機器の活用によるオンライン上での合奏をされている演奏家の皆さんを見ますと、その健気な情熱に感動を覚えます。しかし同じ会場で時空間を共有し、生の演奏や舞台を鑑賞する事によって得られる臨場感溢れる感動は決して得られないことは本当に残念です。

文化芸術は、渇いた心の大地に降り注ぐ雨水の如く、心を潤しそして喜怒哀楽という情感を粧う感激の華を咲かせてくれます。今は渇いた心の大地の中で、発芽するための生命力をじっと養う時間なのかもしれません。やがてひと際美しい心の華が咲くことを信じて・・・

一日も早いコロナ禍の終息を祈りつつ、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

## 令和2(2020)年度通常総会について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2(2020)年度の「尾道市文化協会通常総会」を書面表決にて行い、議案第1号「令和元(2019)年度事業及び収支決算報告」、議案第2号「令和2(2020)年度事業計画(案)及び収支予算(案)」、議案第3号「役員を選出(案)」について、議決権を有する会員130人中100人の賛成をいただき、全ての議事が承認されました。

なお、例年通常総会時に開催しております「文化講演会」につきましては、総会と同様の理由により中止いたしました。

## 総会で決定したこと

### 役員を選出について

役員辞任に伴い、前任役員の前任期間について、副会長及び監事が選出されました。

役職名	新役員氏名	所属部	旧役員氏名	所属部
副会長	鈴木辰男	美術部	藤田宣昭	文化創造部
監事	村上恵子	音楽芸能部	黒田家健	音楽芸能部

### 休会規定について

会員の都合等により一定期間活動が出来ない場合の救済措置として、休会規定を設けました。

休会を希望する年度が始まる前までに届を提出し承認された場合、当該年度の会費及び休会期間終了後の入会金が免除されます。

## 新規加入会員について

令和2年6月8日付で、次の団体の加入が承認されましたので、お知らせします。

団体名	所属部
特定非営利活動法人 茶の湯歳時記同好会	茶道部

## ～事務局だより～

新型コロナウイルス感染症が全世界で拡大し、国の感染対策本部において多くの人が集まるスポーツ、文化イベントの中止・延期を要請されたことから、本市でも多数のイベントが中止や延期を余儀なくされました。

現在、新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言は解除されていますが、公共施設の使用制限などは続いているため、会員の皆さまは発表の場だけでなく、練習の場を確保することも困難な状況ではないかと案じております。

コロナ第2波への懸念も高まるなど未だ予断を許さない状況ですが、一人一人が自らの行動を考え、皆で一つになって、この難局に取り組んでいくことが大切だと考えます。

尾道市文化協会では、感染防止のための十分な対策を取りながら、会員の皆様の発表や活動の場を確保し、今年度の事業に取り組む所存です。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



尾道市文化協会の最新情報を尾道市のHPで発信しています!ぜひご覧ください  
(<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/site/bunka/>)

## 文芸部の活動紹介～文芸誌「尾道文化」のチャレンジ～

会員の皆様にはおなじみの文芸誌『尾道文化』ですが、最近少しずつ紙面が変化しているのにお気づきでしょうか。まず目につくのが表紙。第35号（平成28年度）から第37号（平成30年度）は、尾道大学美術学科の学生へ制作を依頼し、尾道らしいレトロさや温かさのあふれる装丁に仕上げてくださいました。第38号（令和元年度）からは一転、写真を全面に使ったスタイリッシュなデザインに。尾道の古い路地から新庁舎を望み、常に変わり続け、新しいものと古いものが同居する尾道の一面を映し出しました。

また、第37号（平成30年度）からは、紙面を飛び越え、尾道の街中で座談会を開催しています。第1回目のテーマは「失われていく文化に対して、どう向き合っていくか」。流行り廃りの激しい世の中で、真に残していきたい文化の「本質」は何か、考えさせられる時間となりました。会場は画廊喫茶「かのこ」でしたが、この場所も人が集い語らうサロンとして、尾道の文化をはぐくんできた大切な場所です。

これらの新たな挑戦は、『尾道文化』編集委員のアイデアを実現したものです。年5回の編集委員会では、誤字脱字等の校正はもちろんのこと、より魅力的な冊子を作るため、何ができるかを考え続けています。座談会の開催にあたっては、登壇者や会場の選定、広報の方法など、委員で打ち合わせを重ねました。開催後は3万字の対談を1万字になるまで推敲し、ようやく16ページの巻頭企画が完成しています。

文芸部は4団体18個人と小さな部ですが、何十年も活動を続けている人や最近団体に加入した人、創作分野も小説、評論から短歌、俳句、現代詩、随想と、その活動は多岐にわたります。これらを1冊に凝縮したのが『尾道文化』で、まさに「尾道の文化」の一角を担う存在です。

文芸創作は時と場所を選ばず、何歳になっても取り組める魅力的な活動です。

これを機に『尾道文化』を手にとっていただき、文芸部会員の豊かな表現に触れていただければと思います。



### 文化事業紹介（市史編さん業務）

尾道市市史編さん委員会事務局は、市制施行120周年記念事業の一つとして『新尾道市史』の編さん事業を行っています。すでに、平成30年度（2018）には第一巻である文化財編上巻（建築物、史跡、名勝、天然記念物）を刊行しています。

さて、市史編さん委員会事務局の重要な役割の一つに、尾道市の歴史・文化に関する史資料の収集、整理、目録作成、保管があります。新市域となってはじめての市史編さんということで、史資料の収集範囲は旧尾道、御調、向島、因島、瀬戸田と、今までの市町史よりも広範囲に及んでいます。史資料の収集は、市史編さん委員会事務局が本格的に稼働し始めた平成28年（2016）からはじまりました。収集の対象は市内の施設に保管されていたものの他、国立国会図書館、東京大学史料編纂所、国文学研究資料館所蔵、広島県立文書館などの尾道関係文書、『広島県史』編さんに伴う資料調査により個人のお宅で確認されたものなど多岐にわたっています。特に市内施設に保管されていた史資料は地域、時代、分野に分類整理し、目録を作成する必要がありました。

古文書のような史資料と同時に新聞や写真、映像等も収集しています。いずれも個人のお宅から発見される例が少なくありません。史資料の収集は、皆様のご協力のもと現在も引き続き行われています。

充実した『新尾道市史』の編さん並びに、史資料を未来に引き継ぐために今後も頑張っていきたいと思っています。



重井村文書群（現在の因島重井町の行政文書）

# 令和2(2020)年度の事業計画

10月	4(日)	<b>中止</b> けんみん文化祭ひろしま'20 「合唱・洋楽」	しまなみ交流館
	17(土)~18(日)	第15回 瀬戸田地区文化祭	瀬戸田市民会館 ほか
	25(日)	第19回 高校生おのみち演劇祭	しまなみ交流館
	31(土)	「市民音楽芸能祭 2020」(芸能系)	しまなみ交流館
11月	1(日)	「市民音楽芸能祭 2020」(音楽系)	しまなみ交流館
	8(日)	<b>中止</b> 第38回 総合文化祭「尾道小径散策 秋の茶会 2020」	寺院等
	8(日)・15(日)	因島地区総合文化祭 2020	因島市民会館 ほか
	11(水)~15(日)	第38回 総合文化祭「尾道の美展 2020」	市民センターむかいしま
令和3年 1月	24(日)	御調地区文化祭 2020	御調文化会館
2月	14(日)	第31回 尾三地区フェスティバル 「民謡民舞・芸能・銭太鼓・吟詠剣詩舞・洋舞」	竹原市民館ホール
	28(日)	第31回 尾三地区フェスティバル 「和太鼓・邦楽・日本舞踊・新舞踊・大正琴」	せらにしタウンセンター
3月	7(日)	第31回 尾三地区フェスティバル 「合唱・洋楽」	大崎上島文化センター
		『尾道文化』第39号発刊(文芸部)	
		会報誌『海からの風 山からの風』第25号発刊(文化創造部)	
		『御調文学』第55号発刊(御調地区)	

※事業計画は予定です。状況によっては中止となる場合がありますので、予めご了承ください。

令和2(2020)年度の担当者が決まりました。  
1年間よろしくお願いいたします。

事務局長	村 上
事務局次長(事務・総括) 美術・華道部	小 野
音楽芸能部	西 田
文化創造部	高 橋
茶道・文芸部	岩 永

## 尾道市文化協会会報

### 「海からの風 山からの風」第24号

【発行】令和2(2020)年7月20日

【発行所】尾道市文化協会

尾道市久保一丁目15-1

尾道市企画財政部文化振興課内

TEL (0848)20-7514 FAX (0848)37-2377

E-mail: bunka@city.onomichi.hiroshima.jp